

執筆要領

原稿について

本誌では、投稿原稿を受け付けています。以下の執筆要領にしたがって原稿を編集局までお送りください。原稿の採用については、編集委員会が中心になって査読を行います。必要に応じて関連分野の専門家に依頼し決定します。

原稿は、ワードプロセッサまたはコンピュータソフトを用いて作成する。プリントアウトした原稿1部(図表を含む)とフロッピーディスクを編集局へ送付する。フロッピーディスクのフォーマット、使用したマイコンの機種、ワープロソフトは一般に使われているものなら何でも結構ですが、使用したマイコンの機種、ワープロソフト、氏名及びタイトル名をフロッピーディスクの上に明記して下さい。なお、念のため、テキスト形式で保存したファイルも添付するようにして下さい。

総説と技術ノートの著作には、別刷り50部を無料でさしあげます。50部以上希望の場合は有料となりますので、編集局までその旨連絡して下さい。また、非会員で総説または技術ノートを執筆いただいた場合、会費免除で1年間本学会会員になります。

1. 総説と技術ノート

- 1) 原稿の長さは、図、表、文献を含め刷り上がりで8ページ程度(1頁は約1400字と考えて下さい: 横1行18文字で1頁39行×2=78行)とする。
- 2) 第1頁に表題、著者名、所属及びその所在地、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス及び脚注(必要がある場合)を記す。
- 3) 第2頁に400字程度のアブストラクトを記入する。
- 4) 本文に節を設ける場合、1、2、3、・・・とする。
- 5) 書体の指定は、プリントアウトした原稿に朱で行い、斜体(イタリック体)は1本下線(____)、太字体(ゴシック体)は波下線(~~~~)とする。
- 6) 参考文献の数は特に制限しないが、50編以内が望ましい。参考文献は、アルファベット順に通し番号を付けて文末にまとめて掲げる。本文中の引用箇所には、通し番号を右肩に付けて示す。
(例) Aschoffによると¹⁻³⁾、・・・である^{4,5,6)}。
- 7) 文末の参考文献の記載は、次のようにする。
[雑誌] 通し番号) 著者名: 誌名、巻数、ページ(発行年)
[書籍] 通し番号) 著者名: 書名、ページ、発行所(発行年)
(例) 1) Aschoff J, Gerecke U, Wever R: Jpn J Physiol. 17:450-457 (1967)
2) Aschoff J: Circadian Clocks, pp 95-111, North-Holland, Amsterdam (1965)
- 8) 表は原則として3~5程度とするが、必要に応じて増やすことができる。簡潔な標題と必要な説明をつけて、本文とは別の用紙に作成する。
- 9) 図は原則として3~5程度とするが、必要に応じて増やすことができる。1枚の刷り上がりの大きさは、14cm(横)×10cm(縦)か、7cm(横)×10cm(縦)となるようにする。図には簡単な標題を付ける。図の標題と説明は別紙にまとめる。
- 10) 図及び表の表示は、図1、図2、・・・、表1、表2、・・・の通し番号で行う。これらを挿入する箇所を、プリントアウトした本文の原稿欄外にエンピツ書きで指示する。
- 11) 図及び表を文献から引用した場合は、引用を明記するとともに、引用の許可が必要な場合には、著者の責任で許可をとっておく。

2. 研究グループ

研究室や研究グループの紹介記事。刷り上がりで1~2ページ程度。執筆者を含む顔写真、または研究現場のスナップ写真を少なくとも1枚添付する。写真には標題と説明を付ける。

3. 海外レポート

留学などで滞した研究室、訪問した研究施設、あるいは海外調査や見聞の紹介記事。写真があれば添付する。刷り上がりで2~4ページ程度とする。

4. 関連集会報告

国内外の関連集会の紹介記事。写真があれば添付する。刷り上がりで2~4ページ程度。

第8回 時間生物学会ワークショップの提案募集

来る11月14, 15日に山口で行われる時間生物学会においてワークショップの企画提案を公募いたします。時間生物学の未来につながるような、意欲的なワークショップを企画してください。時間は約90分、その中で4, 5人ぐらいの方に発表していただく形式を考えていますが、細かい点は企画を立てる先生にお任せいたします。若い先生からの提案も長老の先生からの提案も歓迎いたします。簡単な企画案(タイトル、趣旨、予定発表者など)を7月末までに大会会長の井上慎一(inouye@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp)までお寄せください。採択の審査は大会長を中心に、時間生物学会理事会で行います。発表演題数にもよりますが、できれば2題のワークショップを行いたいと考えています。

編集後記

学会会員数が500名を突破し、日本学術会議登録研究団体への申請要件の一つである構成員定数(第7部、500名)を上回りました。この申請には、査読制度を設けた学術刊行物を刊行していることが条件となっていますので、本誌ではそ

れに対応した制度を導入しました。投稿規定をご覧頂き、奮って投稿していただくようお願いいたします。最初の投稿論文として、井深信男(滋賀大学)先生の総説を掲載しましたのでごらん下さい。(海老原)

日本時間生物学会誌 Vol.7, No.1(2001) 平成13年5月発行

発行：日本時間生物学会

(事務局) 〒464-8602 名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院理学研究科 生命理学専攻内

TEL:052-789-2498/FAX:052-789-2963

(編集局) 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院生命農学研究科 応用分子生命科学専攻内

TEL&FAX:052-789-4066